

絵画文化財の材料と技法の研究・模写制作

Integration of Advanced Imaging Technology for Preservation of Korean Cultural Heritage Assets



金 珉 Min Kim / 研究員

研究目的

絵画文化財に使用された材料、技法の研究を通じて絵画文化財の保存修復、及び新素材の開発と使用方法の提案

研究内容

模写制作は単純に複製品を生産するための手段ではなく、文化財保存修復の次元から、対象作品の代替ができる一つの方法としての認識が定着している。文化財保存修復の次元での模写制作とは、外観の形態だけでなく対象作品に使われている材料と技法の内面的な再現も重要である。したがって、対象文化財の正確な情報を知る事は模写制作において大変重要な条件となる。正確な情報を得るためには、研究者の長い現場経験と、美術理論的な知識、そして現代の最先端分析機器の活用が必要となる。その中の一つが京都大学で開発した超高画像平面入力スキャナであり、そのスキャナで得た情報を通じて対象作品の正確な記録と、作品に使われた材料と技法などを追跡し、文化財保存修復現場で活用する。

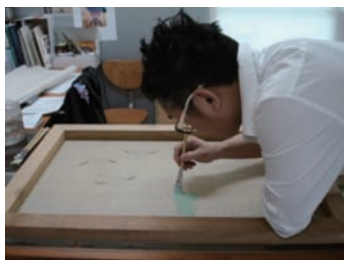


fig1. 模写制作の様子

研究成果

- 韓国通度寺八想図の材料技法研究
- 韓国伝統紙の物性研究
- 韓国南大門復元事業 膠着材研究
- 韓国通度寺靈山殿壁画模写
- 韓国ソウル大学校奎章閣（キュジャンガク）所蔵古地図3点模写